

津山・英田圏域クリーンセンター建設に向けて

——施設の配置案が決定——



(空から見た建設予定地)

施設の位置と配置案

クリーンセンター建設にあたっては公募方式で立候補地を募った結果、9箇所の応募があり、第三者機関である「ごみ処理センター建設適地選定委員会」が現地調査も行い、慎重審査して津山市領家地区を最終候補地に選びました。(関係7市町村長も了承し、決定しました。)

これを受けて、約29ヘクタールの敷地内の施設配置案が下図のように示されました。

なお、現時点では、建設のための総事業費は216億円が予定されています。

今後の予定

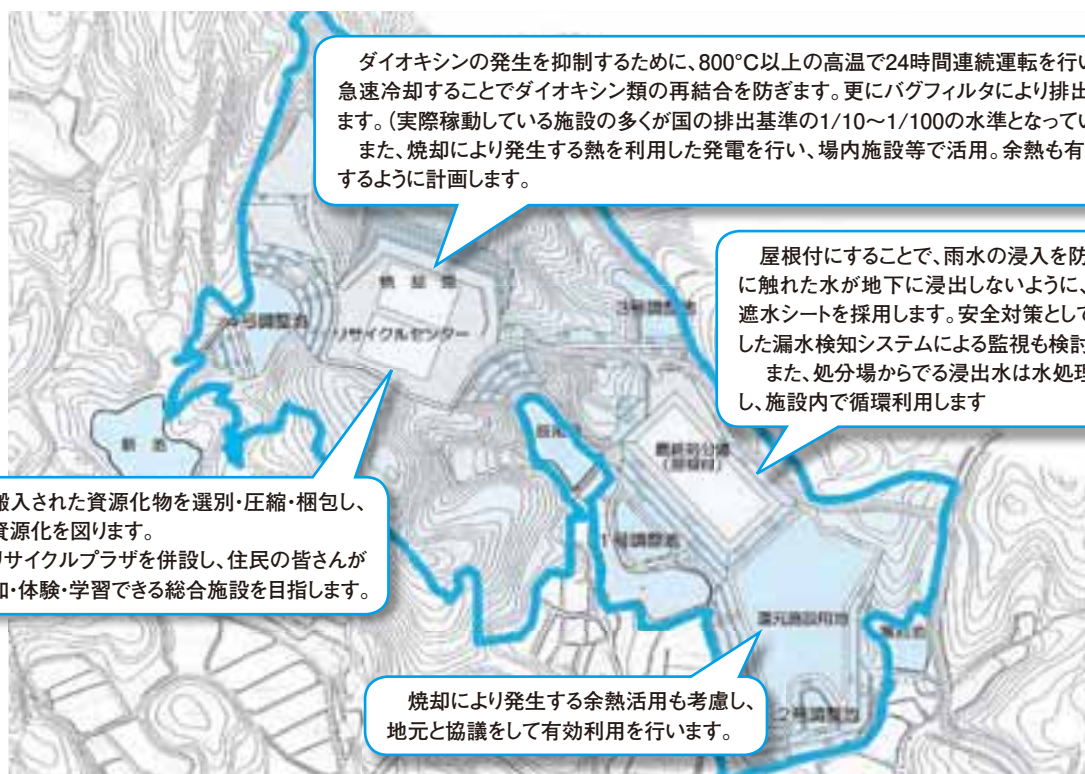
今後の予定ですが、まず、今秋から環境影響評価に着手し、約2年半をかけて大気・水質・土壌・動植物・景観・文化財などについて、環境に影響が生じるかどうかの調査を行います。調査結果は「環境影響評価書」という形で作成・公表されます。

また、平成21年4月から一部事務組合の設立を予定していますが、それに先立って規則などを検討する「準備組合」を設置したり、用地取得に入ったりして、その後に建設工事に入っていきます。

運転開始は平成26年4月が予定されています。

(お問合せ) 町民環境課 本山、小椋

電話0868・54・2984



ダイオキシンの発生を抑制するために、800℃以上の高温で24時間連続運転を行い、その後急速冷却することでダイオキシン類の再結合を防ぎます。更にバグフィルタにより排出も抑制します。(実際稼働している施設の多くが国の排出基準の1/10～1/100の水準となっています。)

また、焼却により発生する熱を利用した発電を行い、場内施設等で活用。余熱も有効に利用するように計画します。

屋根付にすることで、雨水の浸入を防ぎ、更にごみに触れた水が地下に浸出ないように、二重五層の遮水シートを採用します。安全対策として電流を利用した漏水検知システムによる監視も検討しています。

また、処分場から出る浸出水は水処理施設で処理し、施設内で循環利用します

搬入された資源化物を選別・圧縮・梱包し、再資源化を図ります。

リサイクルプラザを併設し、住民の皆さんが参加・体験・学習できる総合施設を目指します。

焼却により発生する余熱活用も考慮し、地元と協議をして有効利用を行います。